

那覇空港は、アジア主要都市まで深夜便や海外キャリアの路線が充実しているため、各国に倉庫を持たせ、沖縄を拠点とすることで在庫圧縮によるコスト削減や保税制度の活用により、合理的な在庫マネジメントや新たなビジネスモデルの構築が可能になります。

つ場合と遜色のないスピード輸送を実現できます。また、サザンゲートは那覇空港に隣接しているため、物流コストとリードタイムも削減できます。

沖縄へ在庫集約とスピード配送

アジア向けのリペアパーツ在庫拠点

緊急輸送が求められるリペアパーツは、沖縄に在庫拠点をおくことで、緊急対応力を高めることができます。また、アジア各地に生産拠点があり、それぞれにリペアパーツを分散させてストックしている企業などでは、沖縄のストックセンターに在庫を集約することで、在庫の圧縮やコストダウン等のメリットも期待できます。

国際ロジスティクスセンター4号棟 (沖縄サザンゲート)



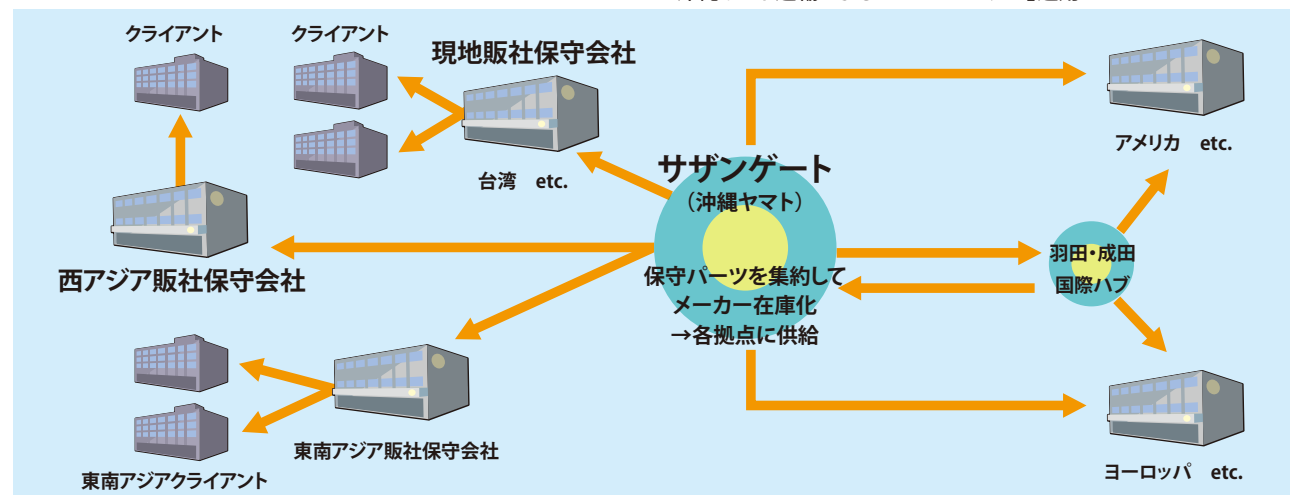
沖縄ヤマト運輸による「パーツセンター」運用



沖縄サザンゲート



イメージPhoto

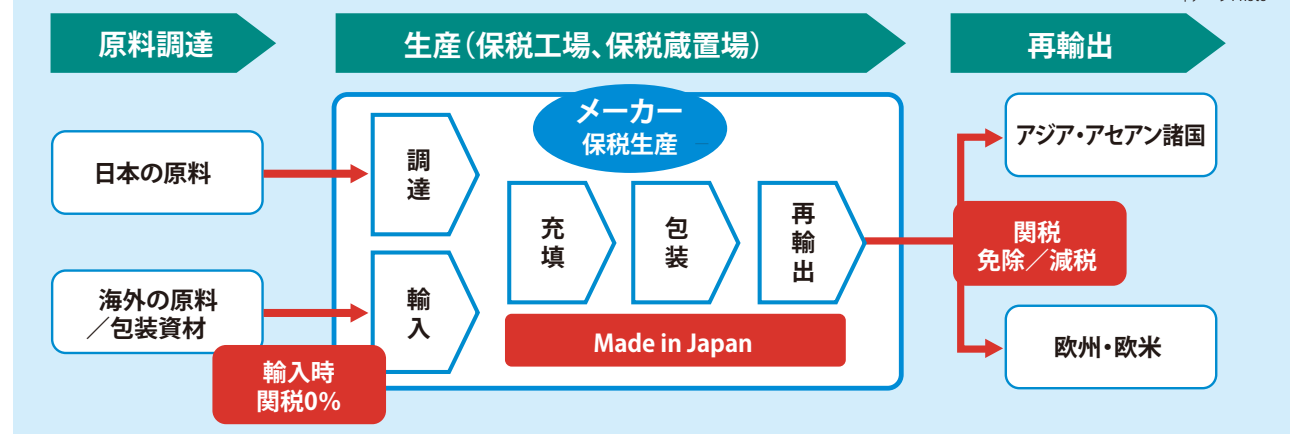


アジア向けの製造拠点かつ物流拠点

化粧品容器への充填、ラベル貼り、包装など、製造の最終工程から物流までをワンストップで支援



イメージPhoto



製造コストの圧縮/リードタイムが削減できます

沖縄ヤマト運輸の物流施設「サザンゲート」は経済特区内にあります。この施設内に貴社の保税工場を造ることで、関税と消費税を支払うことなく、外国から回収した商品を修理したり製品を生産したりすることができます。また、サザンゲートは那覇空港に隣接しているため、物流コストとリードタイムも削減できます。

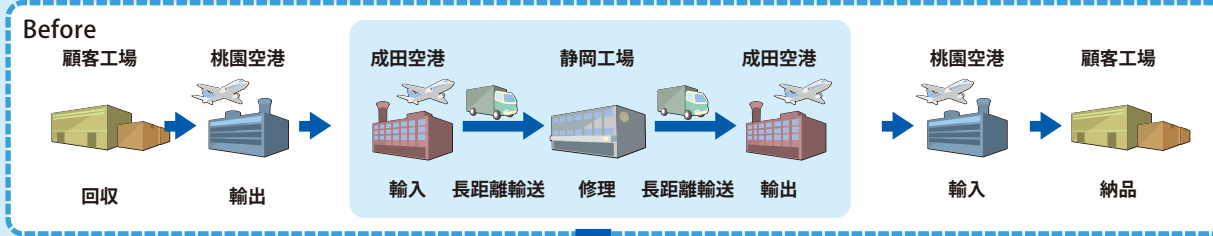
保税修理

外国から回収した修理の必要な商品を、サザンゲート内で修理することで納品までのリードタイムの短縮と物流コスト・修理コストの削減が実現!

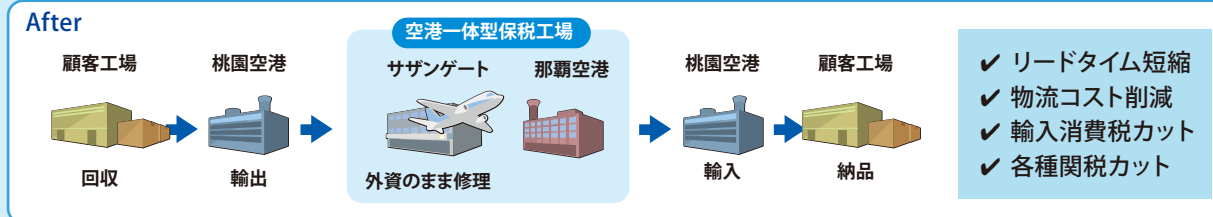


イメージPhoto

顧客事例 例:台湾から修理品を回収して静岡で修理し、台湾に納品する場合 **回収～修理～納品まで平均2ヶ月**



回収～修理～納品まで1ヶ月



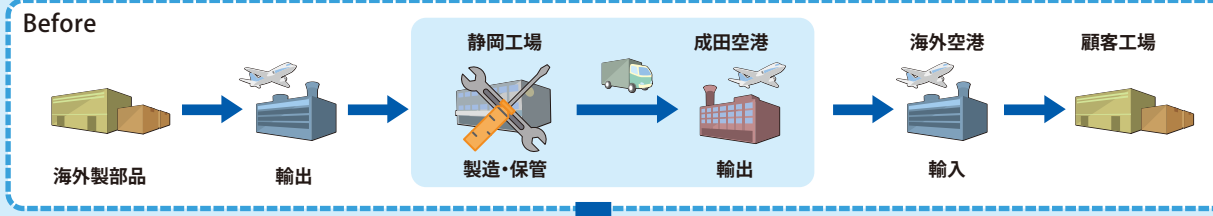
保税製造

海外製部品を、サザンゲートに直接調達し、外資のまま製品を製造することが可能。製造原価を下げコスト競争力UP!

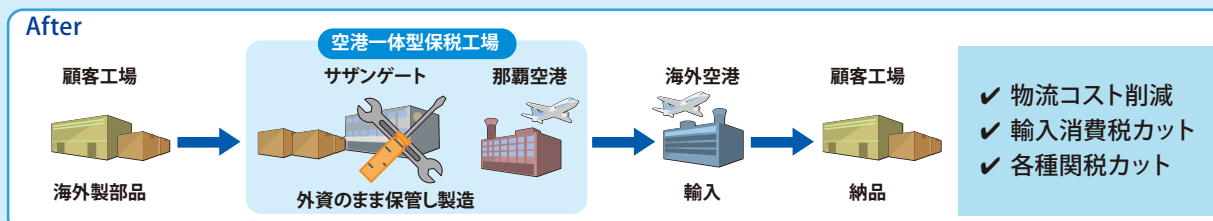


イメージPhoto

顧客事例 例:静岡に工場がある場合



○部品の仕入れコストの一例
部品代 + 日本までの輸送費 + 海外商社マージン + 国内商社マージン + 関税 + 輸入消費税 + 国内の輸送費

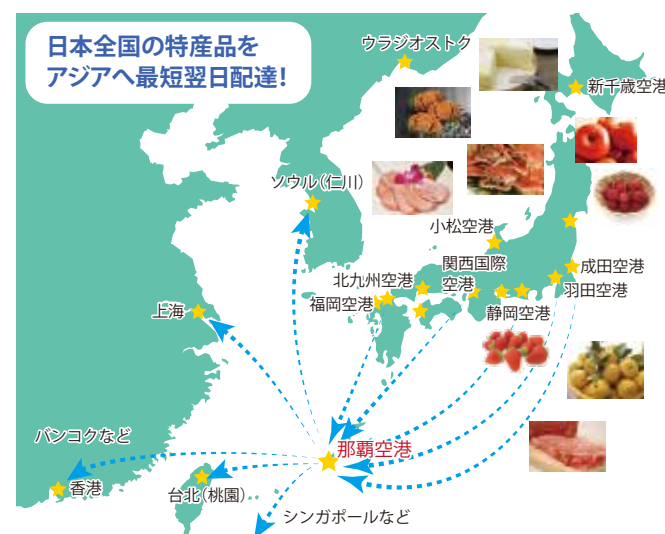


沖縄県では、沖縄国際物流ハブの物流機能を活かし、日本全国の特産品を沖縄経由でアジアへと輸出する 全国特産品の流通拠点化を推進する取組を、各地域と連携して推進しています。

全国の特産品流通拠点化の推進

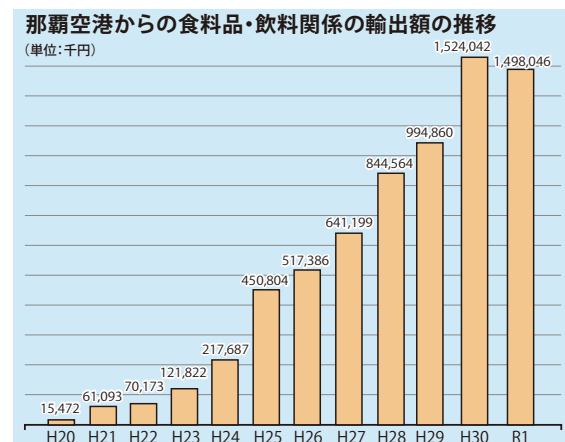
■日本全国の特産品を新鮮な状態で海外へお届け

経済成長を続け、所得水準が向上しているアジア諸国では、食へのニーズも多面的な広がりをみせています。海外からの食品の輸入も大幅に拡大しており、なかでも安心、安全な日本産の食品に対する関心やニーズも高まっています。沖縄国際物流ハブは、全国の特産品を付加価値の高い、新鮮な状態で海外へお届けします。

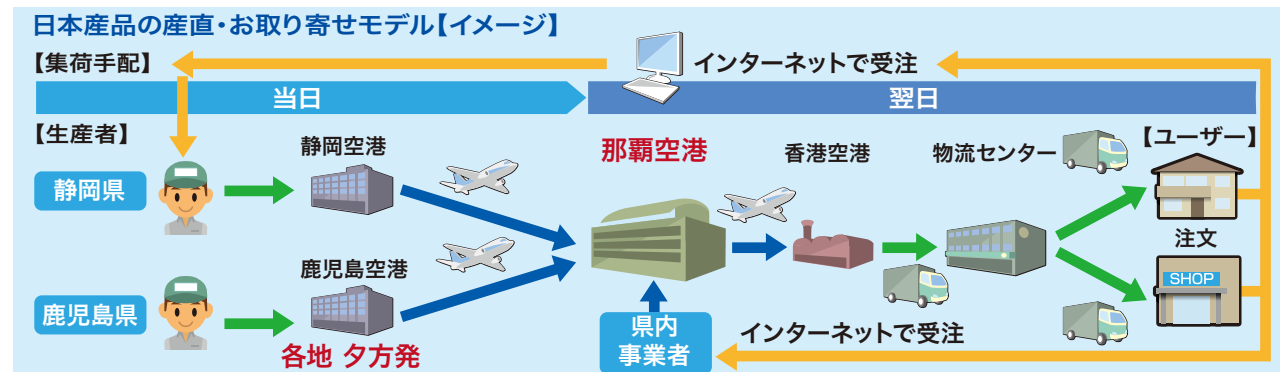


■年々増加する農水産物の輸送実績 航空輸送に強い沖縄国際物流ハブ

平成21年(2009年)10月の国際物流ハブ事業の開始以来、那覇空港における食料品の輸出額は、10年間で約100倍の伸びを記録するなど、大幅に増加しています。全国的にも、国や自治体の輸出拡大戦略等により農水産物の航空輸送量が増加してきています。今後、アジアへ新鮮な食料品の配送を可能とする沖縄国際物流ハブが更に注目されるとともに、沖縄を経由した食料品の輸送量増加が見込まれます。



■Eコマースと沖縄国際物流ハブの活用で販路拡大



例えば、各地方名産品のコラボで、商品力のアップも!



沖縄国際物流ハブを活用して輸送することで、他地域の特産品とのコラボレーションも実現し、付加価値の高い商品をアジアの食卓にお届けすることができます。

可能性が広がる特産品流通拠点

■静岡県「旅客便ベリースペース」での活用事例

静岡県では、平成23年から、静岡-那覇間の旅客機のベリースペース[®]と沖縄国際物流ハブを活用した輸送スキームを運用し、平成25年からは静岡県職員を県内商社へ派遣し海外販路開拓に向けて連携することで、輸出拡大を実現しています。

主な輸出品目であるイチゴについては、輸送時の振動・衝撃による品質低下を防ぐため、旅客機の限られた貨物スペースに対応した専用パレットを開発することで、商品の品質保持が可能となる「静岡型海外輸送モデル」を確立しました。

この輸送モデルと地域商社との連携により、静岡県産品に加え、周辺地域産品も含めたさらなる輸出拡大に取り組んでいきます。

※ベリースペースとは、旅客機の床下貨物スペースのこと。

○「旅客便ベリースペース」輸送イメージ



■鹿児島県「SHIP&AIR」での活用事例

鹿児島県では、鹿児島県産品の輸出拡大に向けた取組として、沖縄国際物流ハブを活用した海上輸送と航空輸送による新たな輸送スキームを、平成29年12月に構築しました。

鹿児島県から沖縄県への輸送距離が短いという地理的優位性を活かした海上輸送ネットワークと那覇空港を基点としたアジア圏への航空輸送ネットワークを組み合わせることにより、リードタイムの短縮や輸送コストの削減を図り、スピーディーかつリーズナブルな輸送体系を実現しています。

この新たな輸送スキームの活用により、畜産物、水産物、農産物等の鹿児島県産品の輸出拡大に取り組んでいます。

○「SHIP&AIR」輸送イメージ



■沖縄県内セントラルキッチン活用事例 「高品質冷凍技術+セントラルキッチン」

うるま市の「国際物流拠点産業集積地域」に平成27年に立地した高品質な冷凍食品加工工場と食品機械製造工場を営むメーカーでは、全国各地の産地からダイレクトに素材を集め、付加価値の高い最終調理済み製品にまで加工した「made in japan」商品を海外の小売店に輸出する取り組みを行なっています。

この新たな「高品質冷凍技術+セントラルキッチン」モデルにより日本産品の輸出促進や廃棄ロスの低減といった社会的な側面からも沖縄国際物流ハブを活用した取り組みとして、より一層の全国連携に取り組んでいきます。

○「高品質冷凍技術+セントラルキッチン」海外輸送サービスイメージ

